

札幌市の歴代韓国国際交流員（姉妹都市提携以降）からのメッセージ

札幌市では、韓国から国際交流員を採用しており、大田広域市をはじめとした韓国関係者との交流の場面などで活躍していただいています。

このたびの姉妹都市提携 15 周年にあたり、姉妹都市提携以降の歴代国際交流員の皆さんから、お祝いのメッセージをいただきましたのでご紹介いたします。

Message

カン・ミンジヨンさん（2008年4月～2012年4月）

【2010年10月姉妹都市提携時に在任】

『札幌市・大田広域市 姉妹都市提携 15 周年を祝して』

このたび、札幌市と大田広域市が姉妹都市提携 15 周年という大きな節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

振り返れば 15 年前、札幌市の新たな姉妹都市として私の母国である韓国の「大田広域市」が選定されたと初めて耳にした時の、あの胸が高鳴るような感動を、今でもはっきりと覚えております。そして、その選択が現実のものとなり、2010年10月22日、両市が正式に姉妹都市提携を締結した瞬間の緊張感と高揚感は、今もなお鮮明に心に刻まれています。

提携準備の段階から締結当日、さらには翌年の 1 周年記念事業に至るまで、実務担当者（国際交流員）として現場で関わらせていただく中で、言葉や制度、文化の違いを一つひとつ乗り越えながら、両市の信頼関係が着実に築かれていく過程を一番近くで見届けられたことは、私にとって何ものにも代えがたい貴重な財産です。

当初の団体や教育機関を中心とした小さな歩みが、年を重ねるごとに市民一人ひとりが主役となる「草の根の交流」へと広がり、より深い相互理解と信頼へと発展している様子を、遠く離れた地からではありますが、この上ない誇らしさを持って拝見してまいりました。

15 周年を迎えた今、これまで積み重ねてこられた歩みの重みを改めて感じるとともに、札幌市と大田広域市の友情と協力の絆が、この先 50 年、100 年、さらには 150 年と、次世代の未来へ向かって力強く受け継がれていくことを、心より願っております。

改めて、両市の限りない発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



市長表敬訪問で通訳をする筆者
（右から 2 人目）

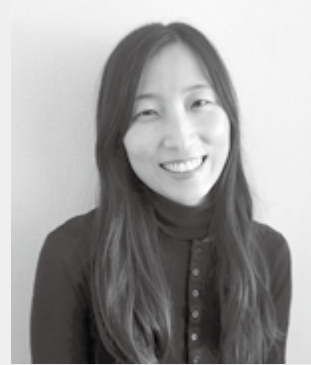


大田市内で訪問団と共に写真に写る筆者（一番右）

Message

ユン・ソヨンさん (2012年4月～2014年3月)

『札幌へ』



札幌の皆さま、ご無沙汰しております。そして、大田市との姉妹提携15周年おめでとうございます！

今から10年ほど前、大田で行われる「ワインフェスティバル」に招待され、当時秋元副市長と大田を訪問し、活気あふれる大田を間近に感じることができました。私は仕事で行ったのでワインをたくさん楽しめなかったのが残念でしたが、今も毎年ワイナリーのぶどうの収穫が終わる秋に開催されていますので、皆さんはぜひ一度行ってワインをたくさん堪能してみてください！

国際交流員の仕事を終えて、現在は岡山で2児の母として忙しく過ごしています。時々図書館のイベントで、韓国語で絵本の読み聞かせをえています。集中して聞いてくれる子どもたちの顔をみると、とても可愛らしく癒されます。

また、札幌マラソン(第37回)をきっかけにずっとマラソンを続けています。去年は岡山マラソンも完走しました。いつかまた札幌の街を走りたいです！

Message

ソン・ミンジさん (2014年4月～2017年4月)

『笑顔になれる街、札幌で笑顔になれた私』



人口約200万人が暮らす街の中で、これほど年間積雪量の多い街は、世界でも札幌だけだと聞いたことがあります。しかし、札幌で出会った人々の温かさは、街に降り積もる雪のように静かに心に積もり、今も私の胸に残っています。

国際交流員としての3年間は、毎年の「韓国を知るセミナー」、毎月の「韓国語ボランティア定例会」、毎週の「レッツトーク・ハングル」など、日々が国際交流で彩られ、笑顔にあふれた時間でした。特に、今年姉妹都市提携15周年を迎えた大田市との交流は、私にとってかけがえのない思い出です。新卒で仕事や生活に慣れなかった私を、札幌市役所に派遣されていた大田市役所の職員の方が温かく支えてくださいました。また、大田市役所囲碁同好会の訪問や雪まつり期間中の交流では、通訳として関わる中で、言葉や文化を越えて互いの信頼関係が深まるのを感じ、自然と笑顔になれました。



国際部の方々にもたくさん助けられ、こうした経験を経て、現在は韓国の京畿道の公立高校で日本語を教えながら、二人の子どもを育てています。札幌での出会いや国際交流員としての思い出は、教えることや子育てにおいても、今も心の支えとなっています。これからも交流の温かさを心に留め、笑顔を大切にしながら毎日を過ごしていきたいと思ひます。

Message

イ・ミヒョンさん (2017年4月～2021年4月)

『大切な思い出をありがとうございます!』

2017年4月から2021年4月まで韓国国際交流員を務めたイ・ミヒョンです。振り返ってみると国際交流員を卒業してもう5年が過ぎていました。時間が過ぎるのがとても速いです。

今は韓国のIT企業や法律事務所のフリーランス通訳・翻訳として働いていますが、まるで国際交流員として働いていたことが夢のように思われます。とても特別な経験で、日本に滞在しながら韓国と関連のある仕事ができ、無縁だと思っていた大田と札幌という二つの市と縁ができました。大田と札幌が姉妹都市でなければ、こんな経験はできなかったでしょう。



そして私個人だけの特別な経験にとどまらず、私のような国際交流員が札幌で交流活動をする事で、札幌の生徒や市民のみなさんにとっても、日常でちょっとした特別な経験ができていると信じます。

これからも両市の交流が深まって、大切な思い出がもっともっと増えることをお祈りします。

札幌・大田姉妹都市提携15周年おめでとうございます!

(写真) 2025年12月に、京都に遊びに行ったときの写真ですが、札幌・北海道にもたくさんお邪魔しています!
実は母のお気に入りの場所が礼文島でして、もう2回も行ってきました。3回目もチャレンジします(笑)

札幌市と大田広域市の姉妹都市交流 15 周年、誠にありがとうございます。

大田広域市出身の私にとって、札幌市の国際交流員として札幌 - 大田交流に携わることができたことは、大きな喜びであり、今でも心から誇りに思っています。私が交流員として在任していた当時は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での交流に制限がある時期でもありました。しかし、札幌市と大田広域市は、そのような状況の中でも学校間のオンライン交流を実施するなど、直接会うことができなくてもご縁をつなぎ続けてきました。

また、在任中には、姉妹都市間の民間交流活性化に関する協定の締結や、さっぽろ雪まつりへの大田市観光 PR ブースの出展など、両市の魅力を市民の皆さまに広く発信する貴重な機会にも恵まれました。大田市を紹介するセミナーを開催し、約 60 名の札幌市民の皆さまに自分のふるさとについてお話しできた時間は、今も忘れられない大切な思い出です。

こうした経験を重ねるうちに、札幌は私にとって「第二の実家」のような存在になりました。街の温かさ、人々の優しさ、そして交流を通じて築かれた数多くのご縁は、今も私の心の中で生き続けています。



現在、私は CityNet (アジア・太平洋都市ネットワーク) という国際機関 (NGO) で、日本担当者として勤めております。札幌市役所在任中に担当した日韓姉妹都市交流の経験は、現在の世界の都市をつなぐ仕事へと自然につながっていると思っております。また、JET 卒業者で構成された親睦団体である JETAA の大韓民国支部会長として、JET プログラムの成果を広く発信する活動にも携わり、日本とのご縁を今も大切に育み続けています。

人と人との交流から始まった姉妹都市関係が、市民同士の信頼と理解を深め、やがて都市と都市、さらには国と国をつなぐ架け橋となっていくことを、心から願っています。



札幌市と大田広域市の姉妹都市提携 15 周年、おめでとうございます。赴任 1 年目に私の地元である大田広域市と札幌市の姉妹都市提携 15 周年記念事業に参加できたことを大変嬉しく思っております。

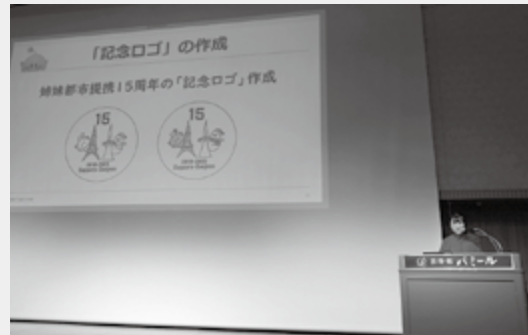
2025 年 4 月に赴任して以来、振り返ってみると姉妹都市交流に関する仕事が一番多かったです。15 周年記念の大田出張や駐札幌大韓民国総領事館のイベント「北海道で出会う大田」で大田と札幌の交流について発表したこと、オンライン学校交流などに携わってきました。その間、大田について調べながら大田出身とは言え、あまり知らなかった大田の様々な姿を見ることができました。



大田出張で市長通訳を務める筆者

特に初めて札幌市民の皆さんの前に立った駐札幌大韓民国総領事館のイベントが印象に残っています。多くの市民の皆さんの前で札幌と大田の 15 年間の姉妹都市交流について紹介しながら、興味を持って聞いてくださる姿を見て民間交流の重要性を改めて確認することができました。

これからも大田出身の韓国国際交流員として札幌市と大田広域市の姉妹都市交流に尽力していきたいと思っております。また、両市の交流がこれから 20 年、30 年と続くことを心からお祈り申し上げます。改めて、姉妹都市提携 15 周年、誠におめでとうございます！



札幌と大田の姉妹都市交流について発表する筆者